

令和6年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

ふりがな	あらかわちくすいさんせいさんきばんせいびじぎょう
1. 事業(施策)の名称	荒川地区水産生産基盤整備事業
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	平成24年8月9日 ~ 令和6年3月19日
3. 事業費(工事費)	5,160百万円
4. キーワード	漁場環境に配慮した計画・施工、養殖業の推進、民間企業の参入
5. 事業概要	五島列島福江島の西部に位置する荒川漁港は、隣接する海域にマグロ養殖漁場を有するなど、生産拠点漁港の役割を担っている。本事業では、狭隘な用地で行っている定置網やマグロ養殖の準備作業の改善を目的とした用地等の整備を行った。

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(b) 既往技術の創意工夫、活用 () () ()	(d) イベントの開催 () () ()
アピールする 2)「秀でた成果」	(i) 環境保全対策 () () ()	(a) 地域の活性化 () () ()

7. 特にアピールしたい点
<p>【民間企業誘致と地区が抱える課題を解決する計画立案】 民間企業の動向を注視するとともに、情報をいち早く入手し、荒川漁港が抱える用地不足の課題解決と合わせ、将来的な利用方法を見越した計画を立案することにより、民間企業の誘致を可能にした。 この結果、クロマグロ養殖の生産量が向上したことに加え、定置網業の安定的な操業形態の確保、また、民間参入による新たな雇用の創出も生まれ、地域活性化にも寄与した。</p> <p>【漁場環境へ配慮した計画及び施工】 施工方法の計画において、クロマグロへの影響を最小限としたサンドコンパクションパイル工法(以下SCP工法)を採用した。 また、工事着手前の現況の水質及び工事着手年度から濁りや騒音等が発生しない工事までの期間、毎年度、海域環境調査を行うことに加え、受注業者独自に水質調査や騒音調査、養殖施設(取水管等)の点検を行うなど、官民一体となった漁場保全に努めたことにより、現場着手から工事完成までの間にクロマグロ養殖業者をはじめとした、定置網業者などの漁業関係者とトラブルもなく、完工までに至った。</p>

8. 事業を代表する写真及びキャプション



9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

○ 事業の概要

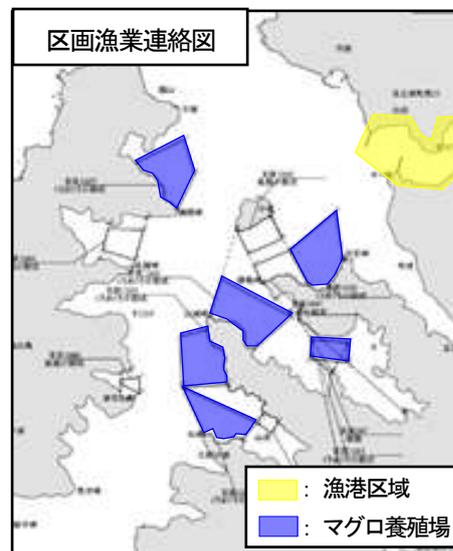
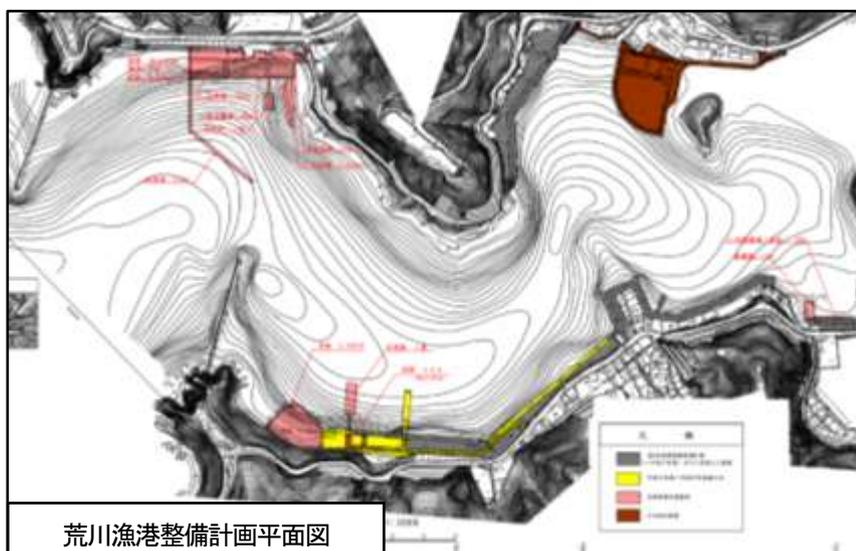
荒川漁港は、五島列島福江島の西部に位置する第4種漁港で、周辺は、東シナ海・五島灘といった全国有数の好漁場に囲まれており、古くからこの海域で操業する漁船の避難港として利用されてきた。

五島列島のうち、当地区が位置する下五島では、平成8年度から民間企業によるクロマグロ養殖が開始され、平成10年度以降本格出荷が始まり、下五島でクロマグロ養殖業を行っている5者のうち、3者は当地区の隣接した玉之浦湾を漁場としているなど、下五島におけるクロマグロ養殖の基地としての役割も担っている。

平成26年度には当地区の背後用地にて、近畿大学との技術協力提携のもと豊田通商株式会社によるクロマグロの人工種苗生産施設の建設計画が発表され、平成27年度より運用を開始し、完全養殖による量産化を実現している。

一方、当地区では、用地不足のため、限られた狭隘な用地の中で定置網の補修や保管が行われているとともに、クロマグロ養殖の生簀の組立や網の補修は、他港まで資材を運搬し、作業を行うなど、非効率な作業を強いられていた。

これを解消するため計画された防波堤や用地等の整備により、安全かつ効率的な就労環境が確保できたとともに、人工種苗の陸送時間の短縮化が図られ、陸送中のへい死のリスク回避が図られるなど、水産業の活性化に寄与した整備となった。



【民間企業誘致と地区が抱える課題を解決する計画立案】

下五島地区は、平成8年度からクロマグロ養殖が開始され、その良好な漁場環境がクロマグロ養殖に適しており、これまで発展を続けていた。

一方、計画策定当時、豊田通商株式会社によるクロマグロの人工種苗生産施設の適地選定を行っている情報をいち早く入手し、荒川漁港が抱える用地不足の課題解決と合わせ、将来的な利用方法を見越した計画を立案することにより、民間参入の誘致を可能にした。

これにより、漁獲制限がない人工種苗によるクロマグロ養殖の生産量の増産を可能にするとともに、これまで荒川漁港の主要漁業であった定置網業の安定的な操業形態の確保、また、民間参入による新たな雇用の創出も生まれ、地域活性化にも寄与した。

加えて、近畿大学の種苗からマグロ養殖業者の自社種苗への転換が進み、現在は100%自社での種苗を確保するなど、当整備により、安全な沖出し等の作業が可能となったことから、人工種苗の技術開発、実用化へも貢献した。

【漁場環境へ配慮した計画及び施工】

荒川漁港に隣接した玉之浦湾ではクロマグロ養殖の漁場(生簀)が数多く位置している。

クロマグロは、水質や騒音等の環境の変化に敏感であり、選択する施工方法においてはストレスを与える可能性があることから、影響を最小限とする施工方法の検討が重要であった。

整備する施設のうち、クロマグロ養殖の漁場に近い白泊地区の防波堤においては、軟弱地盤であったことから、地盤改良が必要となり、特に注視する必要があった。

このため、計画段階より関係する漁協やマグロ養殖業者との協議を数多く重ね、丁寧な説明を心掛けるとともに、施工方法についてもSCP工法を採用し、なおかつ、材料においても製鋼スラグではなく、砂を選択し、環境に配慮した工法の選定を行った。

また、工事の実施に当たっては、工事における漁場環境への影響を把握・管理することを目的とし、工事着手前の現況の水質を確認するとともに、工事期間中における敏感な水質変化にも気づけるよう、工事着手年度から濁りや騒音等が発生しない工事までの期間、毎年度、海域環境調査を行うことにより、クロマグロへの影響の把握に努めた。

これに加え、受注業者においても独自に水質調査や騒音調査、養殖施設(取水管等)の点検を行うなど、官民一体となった漁場保全に努めたことにより、現場着手から工事完成までの間にクロマグロ養殖業者をはじめとした、定置網業者などの漁業関係者とトラブルもなく、完工まで至った。

【イベント開催による地域活性化及び水産資源の確保】

荒川地区は、特に漁業者の高齢化や後継者不足の課題が顕著であるとともに、地域住民の水産資源や海洋環境の保全への関心の低下などにより、従来行われていた美化活動も停滞している状態であった。

整備に当たっては、周辺海域に対する環境保全への配慮が求められていたが、発注者や受注者だけでなく、地元住民の環境保全への関心度を高めることが重要と考え、まず受注者による清掃活動を実施し、その後、発注者及び受注者、漁業者、地元自治会との意見交換の場を設けた。

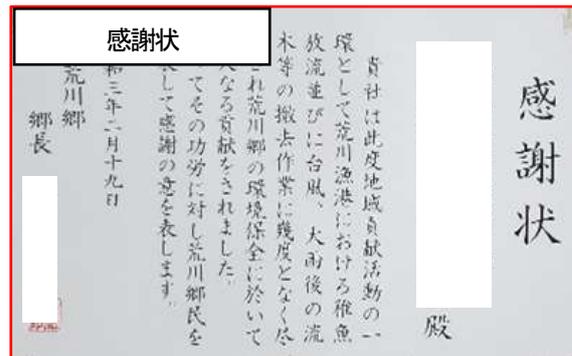
地元自治会からは「地域が活性化するようなアイデアはないか」、漁業協同組合からは「水産資源の増加につながる活動はできないか」、マグロ養殖業者からは「地域に根付くような活動で協力出来ることはないか」との意見を受け、小学生とその親を対象とした現場見学会を開催し、その中で地元住民参加型のシロギス稚魚放流体験会を開催した。

同イベントに参加した小学生からは、稚魚の放流を体験したことで海をきれいに使いたいとの意見があり、水産資源の保全や地域の美化に対する意識向上が図られた。

また、同イベントについては、長崎県のテレビ局においてニュースとして取り上げられ、建設新聞にも掲載されるなど、大きく宣伝されたことにより、地域活性化にも大きく寄与したことから、地元自治会及び漁業協同組合、マグロ養殖業者より感謝状をもらうなど、地元の公共工事に対する理解も深まり、その後の円滑な事業進捗が可能となった。



稚魚放流体験会



感謝状

感謝状

殿